



製造部 製造1課係長

# KUSUNOKI YUICHI 楠 勇一

2008年（平成20年）新卒で松本興産株式会社に入社した楠勇一。製造部・製造1課の係長として、仕事に邁進している。日常の業務や、作業を行う上での心がけ、プライベートについて聞いた。

## 製造部での日常

係長を務める楠の主な仕事は、機械のセットアップ。社内では「セット」や「段取り」と呼ばれるものだ。そのスケジュールを軸として、作業が進む。

具体的な流れは、まずお客様から製品の依頼があり、図面が送られてくる。営業担当が確認した後、その図面が製造課へ。図面をもとに、加工方法や、どの機械がその加工に適正か、などの打ちあわせを行い、判断するのだという。

多種多様な商品材料がある中で、個々の製造にあたるスタッフや、機械の最適な日程を見極め、調整して適宜割り振っている。予定を記す時には、紙の上に表すことが難しい部分も多く、伝達の際に苦労することもしばしばだ。目処が立ったところで、ようやく生産開始となる。

工場内では、常に80台ほどの機械が稼働している。時にはセットアップの際に、パッケージの寸法があわなかったり、連続稼働して動作がおかしくなったり、というトラブルが発生することも。製造時に限らず、お客様のもとへ納品される前の洗浄作業や、品質検査の時点でも問題は起こる。楠は工場内の隅々まで目を配り、常に多くのトラブルに対応しているのだ。

「問題が発生する度に声がかかるのは大変ではありますが、『頼りにしてくれているのだ』と思い、経験を積ませてもらっています。豊富な知識も当然必要だが、この仕事で重要なのは、やはり経験と勘。対応したトラブルの数だけ、経験値も増えていく。

## 紆余曲折を経て

2019年には、新型機械の導入がスタート。従来の機械は「チャック装置」といわれる機構が一つの機械につき二つセットされていた。新型の機械では、それが一つ増え、三つになっている。「人間でたとえるなら、これまで



は機械の中に作業する人が二人いて、加工するイメージ。それが、三人が増えて作業を行うといった具合です」。

加工量も増え、さぞ楽になるのでは、と期待したが、そう簡単なものではなかった。これまでとはまったく異なる加工が必要になり、業務の難易度が上がってしまったのだ。実際に使用してみると、やはり弊害が出た。二人で取

り組んでいた時はスムーズだったコンビネーションが、三人になった途端に不和が起こり、作業効率が悪化したイメージだという。

楠の信条は「常に目的をはっきりさせること」。難局に遭遇した際は、必ず基本に立ち返る。

「目的地に行く手段はいろいろとあるでしょう。大切なのは、決まった手段に固執せず、視野を広く保って、目標を見失わないことだと思います」。

これまでのやり方でうまくいかないなら、次はどうするか。目の前の問題に対応しつつ、「この方法以外にも、やり方があるのではないか」と次の一手を考える。そのようにして、新型の機械と向き合っていた。

1台目の導入から徐々に新型機が増設され、現在は5台まで増えている。無事、導入から実用までこぎつけた陰には、楠のたゆまぬ努力があったのだ。

## 今後の展望

無事稼働までこぎつけた新型機械であるが、まだ不良率の発生は高い。今後はその数字を下げ、可能な限りゼロに近づけるのが、個人的な目標だ。

そんな楠のプライベートは釣りが趣味で、休日には川釣りを楽しむという。根底には「美味しい魚を食べたい」という思いがある。

『釣りをする』というよりも、『魚を調達する』という方が近いかもしれません」。

帰りの車中で釣果のレシピを調べ、仲間と食談義するのも楽しいひと時だ。帰宅すると自身で魚を捌いて、家族で楽しむ。一番食べたいものはイカだが、度重なる挑戦も虚しく、いまだ釣果を得られていない。しかし、趣味においても目的を見失わないよう、イカに固執せず、確実な獲物を狙っている。

新たな目標達成を目指し、これからも楠は日々の業務に取り組みしていく。

## 「仕事のオトモ」を伺いました！



Q1. 欠かせない仕事のオトモは？  
ルーペです。目視では確認しきれない細かな部分を、このルーペで10倍に拡大してチェックしています。

Q2. そのアイテムにまつわるエピソードを教えてください。  
製造部には必須のアイテムで、入社当初から使い続けています。一度壊れてしまったので、現在は2代目です。毎日何十回と使い、シャーペンと同じくらいの頻度で活躍してくれそうです。

## 企業情報

設立年：1970年5月  
年商：30億円（単独）  
2.5億円（神川）  
7億円（タイ）  
※2020年10月時点

# あの人の魅力にもっと迫ります！

第2号の巻頭を飾る楠さんと普段から関わりの深いお二人にお話を伺いました！  
巻頭だけでは伝えきれなかった魅力にさらに迫ります……！



製造部  
GPS課長  
もりさわ しんじ  
森沢 慎治さん

## 1 楠さんとの関係

楠は、私の部下にあたります。

## 2 楠さんとのエピソード

実は楠のことは彼が高校生の頃から知っています。楠は、当時かなりの暴れん坊だった2つ歳下の弟の友人で、「なぜこんな弟と友達なのだろう？」と思うほど、真っ当な人間だと感じたことを覚えています。私が当社に就職して3年目のとある夜、行きつけのビリヤードバーで偶然楠と居合わせたことがありました。話を聞くと、通っている専門学

校の内容が当社の職種とドンピシャ！さらに、自宅から会社まで徒歩1分！私は、この夜の出会いが松本興産の将来を決めたと自負しております。

## 3 楠さんの尊敬しているところ

仕事が速く、発想力、応用力が優れているところです。

## 4 楠さんへメッセージ

これからも互いに高め合い、仕事も仕事以外も至高の逸品を目指そう！

## 1 楠さんとの関係

楠さんは他部署の上司です。

## 2 楠さんとのエピソード

楠さんはとても話しやすく面白い方です！実際にお話をしているときも楽しいですし、誰かとやり取りしている会話を聞いているだけでも面白い……！今後もぜひ楽しくユーモアに溢れた会話を聞かせてください！

## 3 楠さんの尊敬しているところ

周りの人から頼られる存在で、一つひとつの物事に対する対応力と判断力が素晴らしいと感じています。

## 4 楠さんへメッセージ

検査の測定でわからない箇所があるときや仕事で悩んだときに、いつもの確な指導と手助けをしていただきありがとうございます。「楠さんに聞けば間違いない」という安心感があります。これからもご指導のほどよろしくお願いたします！



品質保証部  
やまなか かつき  
山中 亮輝さん

## カメラを好きになったのはいつ頃からですか？

45年ほど前です。

## 社内報専属カメラマンに立候補した理由を教えてください。

これまでの撮影対象はほとんどが風景や自然でしたが、勉強のために人物も撮ってみたいと思ったからです。

## 今後の意気込みと皆さんへのメッセージをお願いします！

人物撮影はほぼ入門レベルですが、皆さんの生き生きとした良い表情を撮りたいと思っています。ご協力よろしくお願いたします！

製造部  
やまぎし あきら  
山岸 明さん



社内報専属  
カメラマンとして  
山岸さんが  
立候補して  
くださいました！

社内報を彩る多くの写真たち。働く人々や環境、会社の様子を素敵に1枚に収めてくださるカメラマンをご紹介します！

# 顧問・監査役紹介

顧問として、松本興産の経営を支える矢野先生。その指導方針や考え方、人となりに迫ります。また、実際に矢野先生の勉強会に参加している総務人事部の竹歳さんからも、先生の魅力や印象に残っているエピソードについて伺いました。

# Interview

## やのちず 矢野 千寿さん

経理部 顧問



## 松本興産で顧問をすることになった経緯

4年ほど前、当社の社長夫人にお声かけいただいたことがきっかけです。元々、私は社長夫人向けに塾を経営しており、全国からお見えになる塾の受講生の一人に、松本興産の社長夫人がいらっしゃいました。受講する中で会社の課題を発見し、何とか解決しようとお考えになり、私と顧問契約をしてくださりました。

## 経理の顧問としての業務内容

月に1度福岡から訪問し、経理の見直しを通して業績を上げるための提案をしています。経理の見直しと言っても、経理部門のみに関係するわけではありません。数字を分析すると、会社全体が抱える問題が見えてきます。この問題の改善を図ることで、業績に変化が起きるのです。具体的には、「人を活かす」方策をご提案しました。社員一人ひとりに良い部分がありますが、現状それに気付いてあげられる人がいません。まずは個々に向き合い、良さを発掘することが大切です。人材力の底上げが、業績改善につながります。この方策の一環として、社員の皆さんとの個人面談を実施しております。面談では、心理学の手法である「TA手法」を適用して一人ひとりを分析し、本人の良さを活かした業務のやり方を提案しています。

矢野先生の勉強会に参加している竹歳さんにもお話を伺いました！



東京オフィス 総務人事部 主任  
たけとし しほ  
竹歳 志保さん

## 矢野先生との関わり、業務内容

月に1度勉強会に参加し、財務分析の手法や経営業務の考え方を教えていただいています。また、実際に私が作成した資料を見ていただき、足りない視点や切り口、よりわかりやすい資料にするためのアドバイス等を頂いています。矢野先生のモットーは、表面上の分析ではなく、経営者の事情や思いなど、数字の裏にあるものを読むこと、資料を見た人が次の一手として何を行うべきかが伝わるものを作ることです。本当に様々なことを勉強させていただいています。

## 矢野様から見た松本興産の姿

土壌を整えれば、良い会社になると思います。良い会社であるかどうかは、収益、そして社長や社長夫人の姿に現れます。お二人とも前向きかつ素直であり、行動力があるため、きっと素晴らしい会社になるでしょう。土壌を整えるとは、「人づくり」をすることです。社員の皆さんは、真摯に助言を受け止め、行動できる人たちばかりです。皆さんはまだ自分の良さに気付いていないので、個人面談を通して気付いていただき、前向きな考え方や行動力を養っていくことができればと思っています。

## 松本興産での今後の目標

松本興産がグループ全体で成長し、もっと社会の役に立てる形を作っていくことです。そのためにまず、個々の力を発掘することで、底上げを図っていききたいと思います。あとは当然ながら、社長と社長夫人の思いを遂げられるよう、サポートしていきたいと思っています。



## 印象深いエピソード

「社会に求められる人間になりたい」という言葉が非常に印象に残っています。自身のステージを高めていこうとする前向きな姿勢には、憧れると共にパワーを感じ、お会いするいつも元気をもらえます。また、「個」を見てくださることに感銘を受けました。初めに私達に性格診断を受けるよう促し、その結果に基づき、各個人の特性や強み、弱みについて丁寧に教えてくださるのです。一人ひとりに寄り添ったご指導は非常に力になっています。